

高校生、受験生、保護者、学校関係者をはじめとするすべての皆さまへ

このたび、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて長らくオンライン開催となっていた新潟大学歯学部の対面型オープンキャンパスが、2019年以来4年ぶりに戻ってきました。皆さんとお会いして直接お話しできること、新潟大学歯学部にお越しいただいてキャンパスを体感してもらえることを今から楽しみにしています。



新潟大学歯学部は、昭和40年(1965年)に日本では3番目の国立大学として設置されました。当時、高度成長期を迎えていた日本における歯科医の役割は、ほぼむし歯治療に向けられていました。平成元年(1989年)より「80歳になっても20本以上自分の歯を保とう」という運動が始まり、歯科医療従事者はむし歯と歯周病の治療を中心とした形態の回復に注力してきました。その後、平成19年(2007年)に日本は超高齢社会に到達し、令和4年(2022年)には高齢化率が30%に到達しようとしています。歯科医療の中心が健常者型から高齢者型へとシフトする中で、歯学部に求められる人材養成も大きく変わってきています。単なる歯の治療から、「話す」、「食べる」といった口腔機能を含む全身の健康と高い生活の質の維持のために何ができるのかを考えた口腔保健・医療人、地域・社会に貢献できる人材の提供を目指しています。

新潟大学歯学部には、歯科医師養成のための歯学科に加えて、歯科衛生士と社会福祉士養成を行う口腔生命福祉学科があります。また、両学科とも編入制度をもち、多様で高度な歯科医療・福祉の提供、創造性をもって先端的な歯学研究を推進するための人材育成を行っています。

新潟大学歯学部の特色には、入学当初から白衣を着て病院見学を行ったり、学生さん自身が模擬患者となって臨床を味わってもらう早期臨床実習、歯学科5、6年生の学生さんが患者さんの主治医となって実際の治療を行う参加型臨床実習、欧米やアジア諸国の協定校に短期留学して、現地の歯学教育や歯科医療を体験する短期留学プログラムなどがあります。これらの紹介だけでなく、対面、オンデマンドを含めた多くのコンテンツで皆さんをお待ちしています。本オープンキャンパスで新潟大学歯学部をさらに詳しく知ってもらい、高校生、受験生の皆さんには進学へのきっかけとしていただくことを期待しています。

新潟大学歯学部長
井上 誠